

国際的な渡りと緑の回廊；佐田岬半島SOS生物保全プロジェクト2016

NGOさんきら自然塾

愛媛県



「佐田岬半島SOS生物ポスター図鑑」の作成。

これを資料・教材とした野外観察会&室内環境講座&写真展の開催

佐田岬半島の生物多様性保全PROJECT 2016

<< 助成事業の概要と成果報告 >>

■古来より<岬十三里>(約52km)と愛称され、四国最西端に位置する日本一細長い佐田岬半島は、僅か13kmの豊予海峡を跨いで、九州と四国、強いてはシベリアと東南アジアを最短距離で結ぶ「国際的な渡りの回廊」として名を馳せています。1日5万羽と讃えられるヒヨドリや、ハチクマ・ハイタカ等の猛禽類のダイナミックな渡りは無論のこと、美蝶：アサギマダラやウスバキトンボ等、昆虫たちの健気な渡りも見事で、県内外のナチュラリストを魅了しています。■そして、こうした動物たちを根幹から支え育むのが植物群。瀬戸内海国立公園の一角を占める半島の北側は、九州の玄界灘を回り込んできた日本海側からの寒風に晒され、冷涼な風土環境となり、カツラやシモツケ等、冷温帯系植物も生育。一方、大部分が佐田岬半島宇和海県立自然公園に属する半島の南側は、太平洋の黒潮支流が押し寄せ、温暖で乾燥した気候のため、アコウやモロコシソウ等の亜熱帯系植物群の宝庫となっている。■が近年、急激な地球温暖化に乗じた南方系生物の侵入によって、在来種が駆逐され北方系生物群も衰退。又、伊方原発から伸びる巨大送電鉄塔や58基もの大型発電風車建設に伴うバードストライクやケモノ道の攪乱も深刻。さらに広大なメガソーラーパネルの敷設により、多くの草原性植物群が衰退。■そこで、当半島ならではの動植物たちの素晴らしい生態と<声なき声：SOS>を広く伝えるべく、塾生入魂のポスター図鑑を作成。これを基礎資料・教材として、各種野外観察会や屋内環境講座、写真展示会等で配布・解説しながら、佐田岬半島の掛け替えの無い<生物の多様性>の保全に、精一杯TRY中です！

*ご支援頂いたタカラ・ハーモニストファン様には塾生一同心より御礼申し上げます。



「佐田岬半島SOS生物ポスター図鑑」の作成。

これを資料・教材とした野外観察会&室内環境講座&写真展の開催

佐田岬半島の生物多様性保全 PROJECT 2016

<< 徹底踏査による記録集積と成果 >>

■凹凸を繰り返すリアス式海岸と、まだまだ道路整備が行われていない箇所が多数ある佐田岬半島の沿岸部を、計測や撮影しながら丸1日かけて一周すると約150Kmもあり苦難の連続でした。塾生の得意分野や出身地に応じて担当地域を分担したので、郷土愛もさらに育まれ、歴史や民族など掛け替えのない<地元学>ともなりました。これまで未踏査だった内陸部や島嶼部にも足を延ばすことで、幹周3m以上の巨木や古い記録のみ残っていた多くの動植物を実記録できました。しかし一方で、塾生が2000年に愛媛県内で初記録したベニイトトンボやクロマダラソテツシジミの再発見には至らず、又、オキナグサ、シコクカッコソウ、シラタマカズラ等の希少な植物群は既に絶滅したと思われる状況で残念至極です。今回の事業で撮影した多くの写真は、現在編纂中の八幡浜市誌に採用され、さらに今後の愛媛県RDB改編時の貴重な踏査記録として注目されています。



幹周3.75m・樹高18mのイヌマキ巨木発見!



佐田岬半島が分布北限地のモロコシソウ



豊予海峡で必撮のカムリウミスズメ



ニホンイシガメで憩うミヤマカワトンボ



「佐田岬半島SOS生物ポスター図鑑」の作成。

これを資料・教材とした野外観察会&室内環境講座&写真展の開催

佐田岬半島の生物多様性保全PROJECT 2016

<<ポスター図鑑の活用と成果>>

■1998年に当塾結成以来19年間撮影してきた写真に、今回事業で加算した動植物の中から、2014年に改編された愛媛県RDBに該当する90種を厳選。佐田岬半島ならではの貴重な生態系の素晴らしさと危うさを広く広報できる内容でポスター図鑑を作成。フィルム写真のデジタル化や何度もの色彩調整で、デザイン兼印刷事務所には多大な負担を掛けましたが、ナチュラリストのスタッフが多く、私たちの無理難題の注文に粘り強く応えてくれました。■完成した図鑑は、当塾が毎月1回主催する市民環境講座<自然界に学ぼうやナイト>と野外観察会<諏訪崎どんぐり自然楽校>では無論、伊方町・町見郷土館での<佐田岬の自然スライド上映歓談会>で配布解説。さらに学校・図書館・公民館等の掲示板に貼ると共に、「ロビー・エレベーター・お茶の間・トイレに是非1枚!」の言葉を添えて、銀行や事務所、各家庭にも徹底配布中。県下一円の盟友環境団体にも所望され大好評です!



川の生物ウォッチング

2016/8・3

松影地区公民館<五反田川で遊ぼう>



八幡浜市福祉文化センター

2017/6・14

「第222回・自然界に学ぼうやナイト」



伊方町・小島の浜

2016/7・25

海に感謝! 瀬戸内海ビーチコーミング



八幡浜市みなと交流館

2017/3・20~24

佐田岬半島のSOS動植物写真展示会

<<2016年度・タカラ・ハーモニー・ストファンド事業>>



里山雑木林床記録



保内・銅鳴山

踏査
撮影



水辺植物踏査

伊方・亀ヶ池

自然界に学ぼう!!



野外観察会
教材・資料

感謝御礼

完成ポスター図鑑

<100部×20包み=2000部>

宝物をありがとう!!

愛媛県獣
「ニホンカワウソ」



青い国・四国

佐田崎半島

学校・家庭・役場・企業や自然観察会・環境講座で大活躍!!

活用
配布

伊予市・下灘小学校

保全
啓発

<自然界に学ぼうやナハ>



宇和島市

講演会・環境会・会議資料

トキワカプロジェクト



◎NGOさんきら自然塾
TEL(0894)24-4961

玄関・お茶の間・トイレに是非1枚!



八幡浜市中央公民館ロビー

四国最西端

佐田岬半島

SADAMISAKI

2017・1・1

ニホンカワウソ(伶猫科)

愛媛県八幡浜市大平 ☎0894)24-4961
E-mail: sunkira@mc.pikara-ne.jp

NGOさんきら自然塾

THE EARTH IS PERFECT AS IT IS!
さんきら自然塾

LISTEN TO THE VOICE OF WILD LIFE 木影井上昭彦氏

Nature Is Perfect As It Is! ★参考文献:「愛媛」

1 オヒキコウモリ(尾曳蝙蝠)

2 アカウミガメ(赤海亀)

3 イシガメ(石亀)

10 トノサマガエル(殿様蛙)

11 ニホンヒキガエル(日本蟾蛙)

12 アカハライモリ(赤腹井守)

19 ハヤブサ(隼)

20 ミサゴ(雌鳩)

21 サシバ(差羽)

22 ハチクマ(蜂角鷹)

23 オオタカ(大鷹)

24 オオコノハスク(大木葉臭)

31 ウラギンシショウモン(裏銀筋豹紋)

32 イボタガ(水蠟蛾)

33 ヒメハルゼミ(姫春蟬)

34 トゲウスバカミキリ(棘薄翅髮切)

35 タベサナエ(田部早苗)

36 クツワムシ(轡虫)

43 ハドノキ(端土木)

44 ハマボウ(浜朴)

45 シモツケ(下野)

46 チョウジカズミ(丁子桐酸実)

47 ゴマギ(胡麻木)

48 ホウライシダ(蓬萊羊歯)

55 ミズオオバコ(水大葉子)

56 ヒメナベワリ(姫甞割)

57 コバノウシシッペイ(小葉牛竹筴)

58 アイアシ(間葎)

59 ナンゴクウラシマソウ(南国浦島草)

60 ウラシマソウ(浦島草)

67 ハンゲショウ(半化粧)

68 シオミイカリソウ(潮見碇草)

69 ヒメイカリソウ(姫碇草)

70 ベニバナヤマシャクヤク(紅花山芍薬)

71 シマキケマン(島黄華蟹)

72 ツクシショウジョウバカマ(筑紫猩猩袴)

79 クルマバアカネ(車葉茜)

80 シロネ(白根)

81 カワミドリ(川緑)

82 イヌノフグリ(犬陰囊)

83 ツシマママコナ(対馬飯菜)

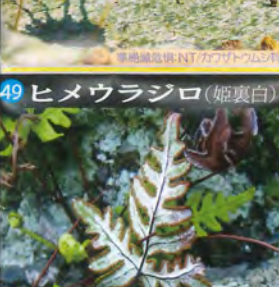
84 キョスミウツボ(青澄散)

*当ポスター図鑑は平成28年度のへ公益信託「タカラ・ハーモニストフランド」様の助成により制作。環境に負荷の少ない再生紙に大豆油インクで印刷。

■日本一細長い(55km)佐田岬半島は、翼や翅をもつ野鳥や昆虫たちは勿論、流し系による蜘蛛や飛膜で滑空する蝙蝠たちの、東西南北の地を最短距離で結ぶ「国際的な渡りの回廊」として名を馳せています。又、北に冷涼で湿潤な海流が流れる。しかし、昨今の地球の灼熱地獄化に乗じて南方系生物が押し寄せ、北方系や在来種は「イヌ取りゲーム」に負けるかのように衰退。又、柑橘栽培が盛んな風土からの過剰な殺虫剤散布、大規模な乱開発や温暖乾燥化による草原と湿地と

5

県レッドデータブック(愛媛県2014年) カテゴリー凡例 ★ 絶滅:EX・野生絶滅:EW・絶滅危惧I類:CR+EN・絶滅危惧II類:CR・絶滅危惧III類:EN・絶滅危惧IV類:VU・準絶滅危惧:NT・情報不足:DD・要注意種:AN

4 タワヤモリ(多和守宮)  準絶滅危惧:NT/ヤモリ科	5 ヒバカリ(日計)  情報不足:DD/ナミヘビ科	6 ジムグリ(地潜)  情報不足:DD/ナミヘビ科	7 シロマダラ(白斑)  情報不足:DD/ナミヘビ科	8 ヤマカガシ(山棟蛇)  準絶滅危惧:NT/ナミヘビ科	9 ニホンマムシ(日本蝮)  情報不足:DD/クサリヘビ科
3 カブトガニ(兜蟹)  絶滅危惧II類:CR+EN/カブトガニ科	14 ペンケイガニ(弁慶蟹)  絶滅危惧II類:CR+EN/イワガニ科	15 クロペンケイガニ(黒弁慶蟹)  準絶滅危惧:NT/イワガニ科	16 アカテガニ(赤手蟹)  準絶滅危惧:NT/イワガニ科	17 ヒメヤマトオサガニ(姫大和蟹)  準絶滅危惧:NT/イワガニ科	18 ヒラテテナガエビ(平手長海老)  準絶滅危惧:NT/テナガエビ科
25 アオバズク(青葉鵟)  準絶滅危惧:NT/フクロ科	26 オオミズナギドリ(大水薙鳥)  準絶滅危惧:NT/ミズナギドリ科	27 ササゴイ(笹五位)  準絶滅危惧:NT/サギ科	28 ミソゴイ(溝五位)  絶滅危惧II類:VU/サギ科	29 カムリウミスズメ(冠海雀)  絶滅危惧II類:VU/ウミスズメ科	30 ルリビタキ(瑠璃鶉)  絶滅危惧II類:VU/ヒタキ科
37 ヒトハリザトウムシ(針産頭虫)  準絶滅危惧:NT/ザトウムシ科	38 コガネグモ(黄金蜘蛛)  準絶滅危惧:NT/コガネグモ科	39 ミナメダカ(南目高)  絶滅危惧II類:VU/メダカ科	40 ドジョウ(泥鰌)  絶滅危惧II類:VU/ドジョウ科	41 ミサキギセル(三崎簾管貝)  準絶滅危惧:NT/ミサキギセル科	42 ナメクジ(蛞蝓)  準絶滅危惧:NT/ナメクジ科
49 ヒメウラジロ(姫裏白)  準絶滅危惧:NT/ウラボシ科	50 オオイワヒトデ(大岩人手)  絶滅危惧II類:EN/ウラボシ科	51 マツバラン(松葉蘭)  絶滅危惧II類:CR/マツバラン科	52 イチョウウキゴケ(銀杏浮苔)  絶滅危惧II類:CR+EN/ウキゴケ科	53 ホンモンジゴケ(本門寺苔)  絶滅危惧II類:VU/ホンモンジゴケ科	54 キヌガサタケ(衣笠茸)  絶滅危惧II類:CR+EN/タケタケ科
61 ツチグリ(土栗)  絶滅危惧II類:CR/バラ科	62 シラン(紫蘭)  絶滅危惧II類:EN/ラン科	63 クマガイソウ(熊谷草)  絶滅危惧II類:VU/ラン科	64 アケボノジュスラン(曙繡子蘭)  絶滅危惧II類:VU/ラン科	65 ホシクサ(星草)  準絶滅危惧:NT/ホシクサ科	66 シマキツネノボタン(島狐牡丹)  絶滅危惧II類:EN/キンポウゲ科
73 ラセンソウ(羅羅草)  準絶滅危惧:NT/シナギサ科	74 ハマゼリ(浜芹)  絶滅危惧II類:VU/セリ科	75 モロコシソウ(唐土草)  絶滅危惧II類:VU/サクラソウ科	76 ムラサキセンブリ(紫千歳)  絶滅危惧II類:EN/シソ科	77 フナバラソウ(舟腹草)  絶滅危惧II類:EN/キク科	78 スズサイコ(鈴鈴胡)  絶滅危惧II類:VU/キク科
85 オミナエシ(女郎花)  準絶滅危惧:NT/オミナエシ科	86 キビシロタンポポ(吉備白薔公英)  準絶滅危惧:NT/キク科	87 カセンソウ(歌仙草)  絶滅危惧II類:EN/キク科	88 イズハハコ(伊豆母子)  絶滅危惧II類:VU/キク科	89 オグルマ(小車)  絶滅危惧II類:EN/キク科	90 ホクチアザミ(火口薔)  絶滅危惧II類:VU/キク科

戸内海、南に温暖で乾燥気味の宇和海と四国で愛媛県で唯一、2つの海を抱くことからの気象条件、変化に富むリアス式海岸から一気に800m級の山嶺へと続く地理的環境からく多種多様な素晴らしい生物相が育まれてきました。雄木林の縮小化、外来園芸植物の野外への逸出と植栽、心無いペットの飼育放棄、悪質なイノブタの放牧や錦鯉の放流、チョウセンイタチやホンダギツネの闇雲の移入等により、佐田岬半島ならではの自慢の生態系がSOSを発信中!!